

平成30年第2回西之表市議会定例会

所信表明並びに提案理由説明

おはようございます。

本日、ここに平成30年第2回西之表市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位には御出席くださいます、まことにありがとうございます。

一昨日、6月12日には世界中が注目する中、史上初となる米朝首脳会談が開催されました。北朝鮮の非核化、平和の構築が中心的な課題であり、本市の「馬毛島問題」も、背景は国際問題に関連していることを意識しながら、今後とも、世界の政治の流れを注視していきたいと考えます。

それでは、議案説明に先立ちまして、本年4月以降の各種行事や事業の状況、各種施策の取り組みについて、ご報告したいと思います。

まず、市主催事業や地域行事、市民の皆様の活動などについてふれたいと思います。

観光・交流の取り組みとして、4月29日に種子島カップヨットレースが開催されました。当日は、あいにくの無風状態となり、結

果、全艇リタイヤのノーレースとなりましたが、前日の種子島ヨットまつりには、中国から約20人の皆様が来島され、交流を深めることができました。今後は、海外艇が参加できる環境づくりも検討していきたいと考えております。

5月6日には商店街で「子供まつり」が行われました。

主催した商工会青年部では、霧島連山・硫黄山噴火に伴い水稻栽培に影響が出た伊佐市の稲作農家を少しでも元気づけたいと義援金を募り、アトラクション参加料の一部と合せ長年交流のある伊佐市商工会青年部を通じて市へ届ける活動が行われました。

5月13日には、第16回生涯スポーツ大会を市内4つの会場で、ソフトボール、グラウンド・ゴルフ、ミニバレーボールの競技を95チーム966名参加のもと開催し、若者から壮年、婦人、高齢者が相互の親睦と融和を図り、楽しい汗を流しました。

5月15日から17日にかけて、伊佐市から本城小学校、田中小学校、山野小学校の児童らが訪れ、学童疎開を縁とする市内小学校と交流事業が実施されました。この取り組みも4年目を迎えます。ますます姉妹都市としての絆が深まっていると考えております。

5月20日日曜日には、市民一斉の海岸清掃を実施いたしました。
天候が不安定であったにもかかわらず約1,800名の参加をいただきました。お蔭をもちまして、これからの観光シーズンに向けて、来島される方々に気持ち良く過ごして頂けるようになりました。

参加された市民の皆さん、ごみの回収に当たられた建設業・建築業の皆さん、また見回りなどの御協力下さった消防団など関係団体の皆さんに心から感謝申し上げます。

6月3日には、西之表市消防操法大会が、市民体育館駐車場を会場として開催されました。小型ポンプの部とポンプ自動車の部に分かれて、日頃鍛えた各校区消防分団の技が披露され、両部門とも榕城分団が優勝するという結果となりました。7月15日に開催される熊毛支部消防操法大会には、西之表市の代表として参加していただきます。消防操法に関しては熊毛のレベルはとて高いですが、優勝を目指して頑張ってくださいと思います。

5月28日から6月10日にかけて、映画「ライフ・オン・ザ・ロングボード2nd Wave（セカンド・ウェーブ）」の撮影が島内

各地にて行われました。喜多監督を始め豪華キャストが来島され、多くの市民がエキストラとして参加し、無事に撮影を終了することができました。来年の春には、全国公開が予定されておりますので、観光振興に結びつけていきたいと考えております。

続きまして、各種施策等の状況について報告をいたします。

まず、産業の分野、農林水産業の状況についてであります。

農業分野の平成29年度農業生産実績については、概算値ではありますが粗生産額が61億3千百万円となっております。

28年度と比較しますと、各品目とも相次ぐ台風の影響を受け、10億円の減少となり非常に厳しい結果となりました。(H28年71億9百万円→H29年61億3千百万円)

主要品目の生産概要については、基幹作物であるサトウキビが5億3千7百万円で、平均反収4トン826キロ、生産量は2万9千199トンと対前年度比3億5千万円の減収となりました。(H28年8億9千3百万円→H29年5億3千7百万円)

種子島のブランド品目候補である安納いもは12億4千4百万円で、2億7千万円の減収となりました。(H28年15億2千万円→H29年12億4千4百万円)

バレイショは1億9千6百万円で、台風の影響による植付遅れや

曇天続きの天候により、対前年度比 1 億 6 千万円の減収となりました。
た。(H 2 8 年 3 億 5 千 6 百万円→H 2 9 年 1 億 9 千 6 百万円)

畜産は 2 5 億 4 千 3 百万円で、子牛出荷頭数の減少(△ 1 7 9 頭)と平均価格の下落(△ 7 万 4 千円/頭)により、3 億 8 千万円の減収となりました。(H 2 8 年 2 9 億 3 千 0 百万円→H 2 9 年 2 5 億 4 千 3 百万円)

次に、鳥獣被害についてです。

被害金額は前年対比 6 7. 6 %の 4 千 4 百万円でありました。シカの有害駆除期間での捕獲頭数は 2 千頭で、3 0 年度は捕獲目標 2 千 5 百頭としております。「守り」の対策である侵入被害防止柵の設置と合わせて、猟友会の協力による狩猟捕獲活動を支援し、効果的な被害防止対策に努めているところです。今後も、更に関係機関との連携を深めていきます。

林業については、各関係機関と連携して施業の集約化と生産性の向上を図りながら島外需要拡大に向けた輸送費の支援をした結果、林業総生産額で前年対比 1 1 1. 2 %の 8 千 4 5 3 万円 木材島外出荷量は 1 万 7 百立米の報告を受けた所です。

水産業の状況ですが、資源状況の悪化や魚価の低迷、漁業就業者の減少及び高齢化、燃油価格の高騰など厳しい状況が続いております。

す。

種子島漁協における平成29年度の水揚げ総額は約3億6千万円、うち島外出荷は7千5百万円で全体の約20%の見込みと伺っており、平成28年度との比較としましては、水揚げ総額において約1千万の減、島外出荷量においても減少しております。

平成30年4月5日から27日まで予定しておりましたモジャコ漁につきましては、予定数量に達したということで19日に操業が終了し、5,244kg、7,362万5,760円の水揚げ金額でした。水揚げ数量で対前年度比1.44倍の伸びとなっています。

次に、観光・交流、まちづくりの方向と今後の予定についてであります。

平成30年度からスタートしました第6次長期振興計画に基づき、歴史と国際色豊かな港町の再生を図り、中心市街地（商店街）の活性化をめざすための「港町再生」に取り組んでいきます。

これまでの議論を踏まえ、さらに本市の歴史や文化、自然、空き店舗や周辺の観光資源も有効に活用し、港町としての魅力を生かしながら、様々な団体・地域と連携した組織づくりを行い、広く議論

を深めていきたいと考えております。

平成30年度は、より効率的な組織をめざして機構改革を実施しました。改変、新設した企画課の中に創設した「歴史文化活用係」においては、喜志鹿崎の北に沈む旧日本軍の九七式艦上攻撃機について、遺骨の確認作業を慎重に進めつつ、その歴史的価値に着目しながら、民間の団体とも連携し注意深く調査を進めているところです。今後、状況により、厚生労働省とも情報交換や協力体制を構築しながら、適宜対応していきます。

今後の予定について述べます。

7月18日には、飛鳥Ⅱが寄港を予定しています。大型客船が寄港するようになり、これまで約20隻が寄港しています。今後も、国、県に対し要望を重ねて、西之表港の更なる施設整備を図ります。

本年度は、明けて3月にも、飛鳥Ⅱの2回目の寄港が予定されています。

8月19日には、第49回種子島鉄砲まつりが開催されます。今回は、市制施行60周年記念ということもあり、花火大会の充実を目玉に準備を進めています。

次に、健康保健についてであります。

平成２９年度国民健康保険特別会計においては、国・県特別調整交付金が当初の見込みより多かったことと、保険給付費が予想より低く抑えられたことなどが相まって、一般会計からの法定外繰入は不要となり、今期定例会に報告しております専決予算で減額することができました。

また、国民健康保険事業につきましては、本年度から都道府県が財政運営の責任主体となり、国保運営に中心的な役割を担う、いわゆる「国保事業の都道府県単位化」が開始されています。

この制度改革のために、国は国保への公費拡充政策をとっていますが、高齢化や医療の高度化による医療費の増加や公費による税負担緩和措置の将来的な縮小も予想され、今後の国保運営は決して楽観できるものではありません。

「保険税収入の確保」、「保険給付の適正化」、「医療費の適正化」を図り、国民健康保険事業の安定的、持続的な運営のため、なお一層の健全財政に努めていきたいと思っております。

高齢者対策として、今年度より、新しく高齢者支援課を設置して

います。高齢者支援課では、5月31日から、大学や企業と連携し認知症予防のための介入試験に取り組んでいます。これまで2年間にわたり市民の認知症リスクを測定してきましたが、その中で将来的に認知症になる可能性のある方を対象に、具体的な予防対策を講じて効果を測定する取り組みです。今後、測定結果をふまえ、認知症予防のための具体的対策の検討につなぎたいと考えています。

かいにゆう
(介入試験…要因に関する作為又は不作為の割付けを行って結果を比較する手法による試験)

地域づくりについても触れておきたいと思います。

去る5月30日から下西校区を皮切りに地域と市長の語る会を開催しています。

今後、2か月程で全ての地域を回り、市民の皆様方と有意義な意見交換ができればと考えています。

人口減少と過疎化が進む中で、この問題に向き合い、いかに地域力を維持していくか、市民とともに考え、対応していくことが求められています。

本市でも、長期振興計画をはじめ各種計画において、その対策を最重要な課題として位置付けており、この課題に各課横断的に取り

組むことにより、地域の多様な主体の連携・協力を図り、必要なサービスを提供するための地域コミュニティの基盤づくりへの取り組みを促進して参ります。

馬毛島についても触れておきたいと思います。

国の動きについては、その後も具体的な情報は入っておりませんが、本年当初にお示しいたしました利活用の一環として、今年の夏に市内の小学５～６年生、１０名程度を募集し、馬毛島の自然に触れる体験活動を実施したいと考えています。この件については、地主からも協力をいただいております、一步一步着実に、進めていきたいと考えます。

それでは、本日提案いたしました議案について御説明いたします。本定例会に提案いたしました議案は、西之表市税条例等の一部を改正する条例など条例の一部を改正する専決処分報告３件、平成２９年度西之表市一般会計補正予算など補正予算の専決処分報告５件、２９年度西之表市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告など繰越関係の報告２件、西之表市税条例の一部を改正する条例の制定など条

例の一部改正が３件、平成３０年度西之表市一般会計補正予算など
予算議案５件の合計１８件であります。

主な議案について御説明いたします。

議案第３６号は、地方税法及び生産性向上特別措置法の規定により
固定資産税の軽減を図るため、条例の一部を改正しようとするもの
です。

議案第３７号は、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する
基準の一部を改正する省令の制定に伴い、条例の一部を改正しよ
うとするものです。

議案第３８号は、鹿児島県乳幼児医療費助成事業費補助金交付要
綱の一部改正に伴い条例を改正しようとするものです。

議案第３９号から議案第４３号は、平成３０年度西之表市一般会
計及び特別会計等の補正予算であります。

一般会計補正予算の主なものは、喜志鹿崎灯台周辺の観光施設整
備事業である「北部観光整備事業」に五千三十七万五千円、道路新
設改良費に社会資本整備総合交付金の決定により二千百四十三万七

千円を追加、そのほか、各費目に４月１日付け人事異動に伴う人件費を計上しております。

この結果、歳入歳出予算の総額に千四百四十五万三千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ百二億一千六百四十五万三千円とするものであります。

市民の皆様並びに議員各位には一層の御理解と御支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げますとともに、議員各位に御審議をお願い申し上げます、私の市政に対する所信表明及び提案理由の説明といたします。

ありがとうございました。

平成３０年６月１４日

西之表市長 八板 俊輔